

(別紙4-1)(ユニット1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600826		
法人名	社会福祉法人 希望の里		
事業所名	グループホームなごみ		
所在地	苫小牧市字錦岡521-444		
自己評価作成日	平成28年1月11日	評価結果市町村受理日	平成28年3月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0173600826-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階
訪問調査日	平成 28 年 2 月 15 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にもあるように、認知症状の程度に関わらず入居者様を受容させていただく事を心がけています。
また、施設の周辺は自然環境に大変恵まれているため、散策や畑仕事を通してそれぞれのライフスタイルに合わせた生活に一定の刺激がある自立支援を行っています。
健康面に関しては、入居者様それぞれのかかりつけ医のいる医療機関への通院の同行を行い、入居者様のいつもと違う些細な変化にも対応できるよう職員への意識づけ等を徹底し、変化があった際には状況に応じて速やかに医療機関への受診を行っています。
入浴設備に関しては、脱衣所、浴槽共に広々としたスペースを活用し、快適に入浴していただけるよう支援を行っています。職員は研修等を通し、ご家族様にも安心していただけるような介護サービスの提供を目指し、意識の向上を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは開設して12年目を迎えようとしています。近隣にある系列のホームとは運営推進会議や敬老会等の法人主催の行事、災害時等で連携があります。地域の方々と相互の行事等で行き来する機会があり、交流を深めています。職員は個別支援にも取り組み、認知症の啓発を目的とした全国キャラバンのマラソンランナーを応援に利用者の方々と出かけたり、自然に恵まれている環境を活用し、山菜の季節にはウドやごみ等を利用者と採りに行き食卓に上がることが職員の喜びになっていると述べています。利用者が「このホームに来て良かった」と思って頂きたいと職員一丸となって利用者への寄り添いに努めている「グループホーム なごみ」です。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた土地 ここ苦小牧で、すこやかに」を理念に掲げ、入居者全員が地域の一員として暮らしていく事を目標として、日々のケアの中で実践に取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義を理解し、利用者への寄り添いを謳った理念を策定しています。ホーム内に理念を掲げ、さらに職員の名札の裏面に理念を記載するなど意識付けに繋げています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や法人事業、敬老会等の定期的な行事を通して交流を深めていくことができるよう努めている。	避難訓練や法人主催の行事(敬老会等)や系列ホームとの合同運営推進会議には、地域の方々の出席を得ています。町内会行事の五月祭には、清掃活動後の餅つきや食事会に職員と利用者が一緒に参加し地域の方々と交流を深めています。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会への行事等に参加し、事業所の存在をアピールしながら、認知症高齢者の方に関する情報提供や理解を深めていきたい。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では活動状況を報告し要望、助言等を受けている。また、他の事業所での取り組みなど各種の情報によりサービスの向上に取り組んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議等の機会や、保険者への面談・電話確認にて意見交換の連絡を密にしながら協力関係を築いている。	職員は、市の担当窓口へ報告書類等を持参し、また外部の研修等でも担当者顔と顔を合わせています。市の担当者も運営推進会議や利用者の状態確認等でホームを訪れ、情報や意見交換が行われています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束は行っていない。緊急的に実施する場合であっても、身体拘束の三原則を強く意識し、マニュアルを作成して身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	職員は、身体拘束防止に関するマニュアルや外部研修参加後の職員による勉強会、会議等で不適切なケアの内容を理解しています。職員間でも確認を行うなど、統一したチームケアに努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	サービス会議等を通し、高齢者虐待防止の徹底に向けて意識を高めることが出来るように努めている。また、外部研修への参加を行い、事業所の質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通して権利擁護事業への理解を深めていくことが出来るように努めている。必要に応じて相談窓口になったり、制度を活かした取り組みを行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定の際には書面や面会にて説明を行い、疑問点や不安に対し詳細に返答出来るよう準備を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員が気づかなかったことを汲み取ることが出来るよう、運営推進会議や訪問された時に意見を聞きながら、職員会議等での話し合いに反映させている。	家族に系列ホームと合同のホーム便りと各利用者の様子を伝える手紙を年2回送付しています。利用者や家族から要望を聞いたり日常のケアの中で把握に努めていますが、運営に関する意見は多くはありません。	可能であれば、ホーム便りや個別の手紙の回数を増やして利用者の日常の様子を伝え、その中から家族の根底にある要望を引き出すなど、利用者や家族の満足感に繋がる取り組みを期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度、職員が発言しやすい雰囲気を作りながら意見の汲み上げを行っている。定期的な職員会議でも、発言の機会が増えてきている。	管理者は職員と面談をし、要望や意見の把握に努め就業意欲の向上を図っています。運営に関する業務は職員が各々担い、利用者が暮らしやすい環境作りに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年次有給や休み希望を出来るだけ汲み取る事が出来るよう労働条件に配慮している。法人の就業規則に準じ、給与の支給を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のスキルに応じスタッフ研修会や外部研修への参加機会を設けている。必要に応じ、インターネットや文献を活用しながら知識の獲得に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	グループホーム連絡会等を通し、他のグループホームとの交流機会を設けている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族、医療機関のソーシャルワーカー、ケアマネジャー等から聞き取りを行い、初期状況の把握に努めている。また、入所時に面談を行い、ご本人の希望を聞くことによりケア内容に活かしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に面談にて不安点やニーズを聞き出すように努め、一方的な意見を聞くのではなく、本人と家族にとって中立的な立場を意識し日々の支援に反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族の今現在におけるニーズの把握に努め、他のサービスが必要な場合には、医療機関や介護支援事業所、地域包括支援センター等で相談する事ができるよう調整を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が出来ている事、どの様な介護が必要であるかを常に考え、介護の現場に活かしながら関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に生活状況をお伝えする事で入居者様の現況を相談し、グループホームでの一方的な支援にならないようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容室へ外出される方もおり、馴染みの関係が継続できるように配慮している。また、面会等で関わりが継続することが出来るようにしている。	面会に訪れる家族が、他の利用者にも親しく話しかけるなど馴染みの関係になっています。友人、知人の来訪も歓迎しています。通院時には入居前に住んでいた場所を車で経由するなど、利用者の馴染みの繋がりが継続するよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの身体状態や精神状態を把握しながら、入居者様同士が日々の関わりの中で支え合う事が出来るように配慮しながら支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された入居者様の相談や状況に応じフォローを行っている。定期的に連絡を取り、ホームを気軽に訪れ交流できるよう継続的な関わりをしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で入居者様の希望や困っていることを把握するように努めている。	職員は、会話の中で利用者の要望を傾聴したり、言葉や表情から把握しています。時には、家族からの情報をもとにし利用者の希望に応じた生活支援に取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人・ご家族、ケアマネージャーからこれまでの暮らしを把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の介護記録を整備し、職員間で情報を共有し現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の希望を聞きながら介護計画を立案するするようにしている。3カ月毎にモニタリングを実施し、入居者様の変化の把握に努め、ケアの実践に活用している。	ケアプランの見直し時には、利用者や家族からの生活への要望や医療関係者の意見を踏まえ、全職員で利用者の現状の確認と課題を話し合っています。	ケアプランと個別の記録の連動性が十分ではありません。ケアプランの実践が個別の記録で容易に確認でき、見直し時にも生かせる書式の検討を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を整備し、職員間で情報を共有しながら現状の把握に努めている。介護記録を振り返り、職員会議等にて検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者、ご家族の希望には柔軟に対応できる体制を整えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買物や外食等、個々の嗜好にあった社会資源の活用に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様のかかりつけ医への受診を基本とし、医師、及びに他医療機関相談室とも連携しながら支援している。	入居前からのかかりつけ医への受診同行を行い、また利用者の状態によっては往診も受けられるよう医療機関と連携しています。さらに、週1回の訪問看護師による助言を受けながら利用者の健康維持に努めています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと提携している。定期的な訪問により入居者の健康状態や変化に応じた支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご本人様、及びご家族の希望を最優先しながら対応を行っている。医師、看護師、ソーシャルワーカーと連携しながら、希望に添うことが出来るよう配慮している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについては事前にご本人、ご家族の意向をお聞きし対応している。可能な限り意向に添うことが出来るように取り組んでいる。	契約時に、重度化した場合の対応に係る指針の中でホームの医療体制を説明しています。看取りの経験はありませんが、職員はさらなる知識や技術の習得を課題としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習への参加にて有事の際のスキルを身につけるとともに、マニュアルを整備しスムーズな対応ができるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、消防等からの意見を参考に振り返り災害時の対応への意識づけを行っている。また、連絡網の調整も職員の入れ替え等に合わせて変更の周知を行っている。	地域の方々の協力を得て、年2回、昼夜想定避難訓練を実施し、運営推進会議で内容を報告して意見を頂いています。行政や法人本部、系列のホームと非常時の連携体制を構築しています。	消防署に指導の要請をしていますが、都合により来訪は頂いていません。専門家の目を通しての意見は重要ですので、日程の工夫等で指導を仰ぐ取り組みに期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に重点を置きながら契約内容の遵守、及び定期点検、話し合いを行っている。	新入職員研修時には、接遇を含む職員の在り方を指導しています。管理者はもとより職員間においても不適切な場面が見られた場合は、注意し合える関係を構築しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己選択・自己決定を原則とし、入居者様の能力に応じて決定していただく事ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	入居者様のペースや希望に応じた対応ができるよう支援・指導している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人毎の希望に合わせて寒暖などの点も考慮に入れながら服装、髪型等の支援を行なっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ入居者様の嗜好に合わせたメニュー作りに配慮している。入居者様と一緒に食事を摂る事で、会話を楽しみながら食事していただいている。	運営法人の栄養士が献立を作成し食材が届けられています。食事内容や利用者の好みなどを伝え、利用者が食事を楽しめるよう努めています。菜園での収穫物はおやつで楽しみ、会話の糸口に役立っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量の摂取状況は、必要に応じ医師へ相談している。また、食事内容をそれぞれの状態にあった形、摂取方法にて個別支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。また、保健所主催の口腔ケア研修等に積極的に職員を派遣し、意識の向上に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の身体状況に合わせた支援を実施している。可能な限りトイレで排泄していただき残存機能の維持、向上を意識し支援を自立支援を行っている。	職員は各利用者の排泄の間隔を把握しており、羞恥心に配慮した声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄に繋げています。食事や水分、運動などでスムーズな排泄支援への取り組みに努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介護記録以外にも一ヶ月単位で把握しやすい一覧表の記載を行い、日々の申し送りを徹底している。また、水分の不足と見受けられる方には積極的に水分摂取の促しを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	全身浴やシャワー浴、足浴、清拭等、入居者様の希望に即した対応を行っている。	同性介助の要望も取り入れ、週3回を基本とした入浴支援を行っています。入浴を拒む時は、声かけ等の工夫で入浴に繋げています。利用者は、入浴剤で温泉気分を味わっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその時の希望に即した対応を実施している。天気の良い日には課外活動を行い、気持ち良く生活していただく事が出来るように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方についてはファイルにて管理し、常に確認し合う体制を作っている。また、目薬や湿布薬、塗り薬等に関しても都度周知を徹底している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者の生活歴についてはスタッフ間で共有しており、談話等の中で見合った課題や話題を提供するようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自然が豊かな地域性である特性を活かし、課外散策や外食支援を行なっている。また、園外周には花壇や農作物を育み、戸外へ出かける環境を整備している。	職員は、天候や利用者の体調に配慮しながら、一緒にホーム周辺や近所の公園への散歩をはじめ、買い物、畑の手入れ等での外気浴で利用者の気分転換を図っています。家族と外食を楽しむ利用者もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々（家族含む）の希望にて現金を所持されている入居者様もあり、外食時等に使用することにより、生活意欲を損なわないように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望に応じ支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには入居者様が作成した季節感のある掲示物を展示し、季節感を感じていただく事が出来るように配慮している。また、認知症の周辺症状に応じ、室温や明るさに個別的な対応を心がけることで、安心して生活できる環境を整えている。	ホーム全体がゆったりとした造りになっており、居間には床暖、廊下にはコルクタイルを使用し、温湿度や清掃、採光にも配慮があります。各ユニット内には、お雛様や利用者と職員の共同作品等が飾られ、彩りある生活環境になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の限定した場所にこだわる事なく、様々な場所で話の輪を作る事が出来るよう努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人にとってなじみのある物、使い慣れた物を持ち込んでいただき、安心して生活していただく事が出来るようにしている。	居室にはナースコールや寝具付きベット、洗面台、クローゼット、テレビが設置されています。利用者は好みの生活用品を持ち込み、それぞれが趣のある居室になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手摺、床剤には転倒時衝撃を吸収できるようコルクタイルを使用。備品として四点式杖、歩行器、車椅子等を用意し、身体機能に応じて使用して頂いている。		